

不祥事に伴う植田喜裕府議の議長辞職と新議長選出について

2017年2月15日

日本共産党京都府会議員団

団長 前窪義由紀

本日開会した2月定例府議会の冒頭で、植田喜裕議長は、公職選挙法違反の疑惑が指摘された不祥事の責任を取り、議長を辞職した。不祥事を理由とする議長の辞職は、府議会事務局として確認できる1956年以降初めてである。植田氏本人はもとより、同氏が所属する自民党の責任は極めて重いものがある。

報道によれば、植田前議長は、「地元学区の消防団に、氏名入りの『のし』を付けた日本酒一升瓶2本を贈り、少なくとも数年前から慣例的に行っていた」ということである。これは公職選挙法違反に問われる可能性もある問題であり、府民の信頼を取り戻すためにも、議会として自浄作用を発揮し、問題の徹底調査に取り組むべきである。本日の議会運営委員会で、わが党議員団はこの旨を主張し、議会運営委員長も検討することを表明したが、今後、実効ある対応がなされるよう、引き続き党議員団として力を尽くす。

植田氏の議長辞職を受け、後任の議長を選ぶ選挙が行われることとなった。自民党会派には前代未聞の不祥事を引き起こした責任があり、わが党議員団は自民党からの議長選出は今回自粛するよう求めた。

ところが、自民党から近藤永太郎氏を議長候補とする意向が表明されたため、わが党議員団は、団長の前窪義由紀を議長候補に立てて選挙に臨んだ。投票の結果、近藤氏が新議長に選出されたが、民進党・府民クラブ、公明党が自民党に同調し、自民党からの議長選出に協力したことは重大である。

以上